



(証券コード：7745 東証1部)

# 平成18年3月期 本決算説明会

平成18年5月18日

平成17年4月－平成18年3月

## ご注意

本資料に含まれる予想に関する記載は、現時点における情報に基づき判断したものであり、今後、日本及び世界の経済動向、新たな技術開発の進展により変動することがあります。従って、当社としては、その確実性を保証するものではありません。

# Contents

1. 平成18年3月期の概況
2. 計測・計量機器事業 実績-1
3. 計測・計量機器事業 実績-2
4. DSP事業の業績について
5. ADTとの統合効果について
6. 医療・健康機器事業 実績-1
7. 医療・健康機器事業 実績-2
8. 家庭用血圧計の生産状況
9. 財務分析(貸借対照表)
10. 財務分析(キャッシュフロー)
11. 設備投資・減価償却費の推移
12. 為替の影響について
13. 平成19年3月期通期見通し
14. 計測・計量機器事業 見通し-1
15. 計測・計量機器事業 見通し-2
16. DSP事業における当期の取組み
17. エンジン実験棟の増設について
18. 医療・健康機器事業 見通し-1
19. 医療・健康機器事業 見通し-2
20. ME事業本部の立ち上げについて
21. 中期経営計画
22. 補足資料

## 平成18年3月期の概況



(単位：百万円)

連結損益	17/3期 (実績)	18/3期		18/3期 (実績)	前期比	18/3期 予想	予想比	コメント
		上期	下期					
売上高	25,472	13,651	17,575	31,226	22.6%	30,094	3.8%	DSP事業を主因に前期比大幅増加
売上原価	14,485	7,706	10,333	18,039	24.5%	17,576	2.6%	原価率前期より若干悪化も、予想以下
販売費及び一般管理費	8,309	4,659	5,179	9,839	18.4%	9,112	8.0%	ADTでの買収に伴う費用、開発費等の増加
営業利益	2,678	1,286	2,062	3,348	25.0%	3,406	-1.7%	
経常利益	2,415	1,168	2,024	3,192	32.2%	3,071	3.9%	
税引き前利益	2,231	1,157	1,999	3,156	41.5%	3,059	3.2%	前期は固定資産売却損60百万円、退職給付会計基準変更時差異償却90百万円発生
当期純利益	1,440	717	1,219	1,936	34.4%	1,882	2.9%	

(注) 18/3期予想は、11月16日付の「平成18年度3月期中間決算短信(連結)」にて発表した予想であります(以下同じ)。

# 計測・計量機器事業 実績－1



(単位：百万円)

セグメント		17/3期 (実績)	18/3期 (実績)	前期比	18/3期 予想	予想比
計測・計量機器事業	売上高	15,748	19,776	25.6%	19,287	2.5%
	売上原価	8,962	11,660	30.1%	11,394	2.3%
	販管費	4,920	5,786	17.6%	5,350	8.1%
	営業利益	1,867	2,330	24.8%	2,543	-8.4%

## 1. 売上

- ・新規事業は、DSP事業の大幅増加を始め他事業も順調に推移

## 2. 売上原価

- ・ADT及び防衛庁案件で原価率上昇
- ・既存製品はコスト削減進む

## 3. 販管費

ADT買収費用、開発費の増加

## 計測・計量機器事業 実績－2



(単位：百万円)

製 品 種 別	17/3期 (実績)	18/3期		前期比	18/3期 予想	予想比	
		上期	下期				
計 測 機 器	1,677	917	925	1,842	9.8%	2,000	-7.9%
計 量 機 器	9,749	5,171	5,477	10,648	9.2%	10,600	0.5%
計測・制御・シミュレ ーションシステム(新規)	1,920	1,236	3,347	4,583	138.7%	4,081	12.3%
電 子 ビ ー ム 関 連 ユ ニ ッ ト	2,402	1,287	1,416	2,703	12.5%	2,605	3.8%
売 上 合 計	15,748	8,611	11,165	19,776	25.6%	19,287	2.5%

**計測機器** : DSP応用の特殊試験機が伸びて前期比増(予算は未達)

**計量機器** : 分析天秤、水分計、ロードセル等全体的に好調

**DSP(新規事業)** : 防衛庁案件、ADTの売上寄与等もあり大幅な増加

**電子ビーム関連ユニット** : 引合好調で、ほぼ予定通り

# DSP事業の業績について



(単位：百万円)

	用途種別	16/3期 (実績)		17/3期 (実績)		18/3期 (実績)		
		上期	下期	上期	下期	上期	下期	
新規事業	自動車関連	486	611	436	858	964	1,595	
	試験機関連	103	83	119	388	63	80	
	その他	68	120	113	5	209	1,672	
	小計	657	814	668	1,252	1,236	3,347	
既存事業への DSP技術応用	特殊試験機関連			18	182	186	162	
	計量制御関連			36	60	42	49	
	医療機器							
	小計			55	241	228	211	
合計			657	814	723	1,493	1,464	3,558
売上合計 (通期)			1,471		2,216		5,022	

ADTでの買収により、当社への信頼性がアップ。自動車会社を中心に受注・売上ともに好調。防衛庁案件、ADTの売上もあり新規事業分野は大幅な増加。既存事業へのDSP技術の応用も順調に進んだ。

# A D Tとの統合効果について

## 今期の実績

A & DとA D Tのハードウェアとソフトウェアを共有化

### A & D

- ・ ADTのATLASとCAS（注）が当社ハードウェア上で動作可能に。
- ・ 実績のあるADTの存在が顧客信頼性のアップに。

国内自動車メーカーからエンジンベンチの受注を獲得し、引合も急速に増加

### A D T

A & Dハードウェアの使用でコスト低減の実現に目途。

原価率の低減により、来期以降の収益率向上に寄与

（注）ATLASとCASは、ADTのオリジナル技術です（補足参照）

# 医療・健康機器事業 実績－1



(単位：百万円)

セグメント		17/3期 (実績)	18/3期 (実績)	前期比	18/3期 予想	予想比
医療・健康機器事業	売上高	9,724	11,450	17.7%	10,807	5.9%
	売上原価	5,523	6,379	15.5%	6,182	3.2%
	販管費	2,480	3,002	21.0%	2,803	7.1%
	営業利益	1,721	2,069	20.2%	1,822	13.6%

## 1. 売上

- ・ ロシア向血圧計は更に伸長
- ・ 医療機器が海外は中心に大幅増加

## 2. 営業利益

- ・ 医療機器の開発強化で販売費が増加したが、原価低減の効果により収益確保

## 医療・健康機器事業 実績－2



(単位：百万円)

製品種別	17/3期 (実績)	18/3期		前期比	18/3期 予想	予想比	
		上期	下期				
医療機器	1,681	1,190	1,505	2,696	60.4%	2,362	14.1%
健康機器	8,043	3,849	4,905	8,754	8.8%	8,446	3.6%
売上合計	9,724	5,040	6,410	11,450	17.7%	10,807	5.9%

**医療機器**：海外でアメリカでの医科向け血圧計のユニット供給が大幅に増加し、国内でもメディカル計量器が好調

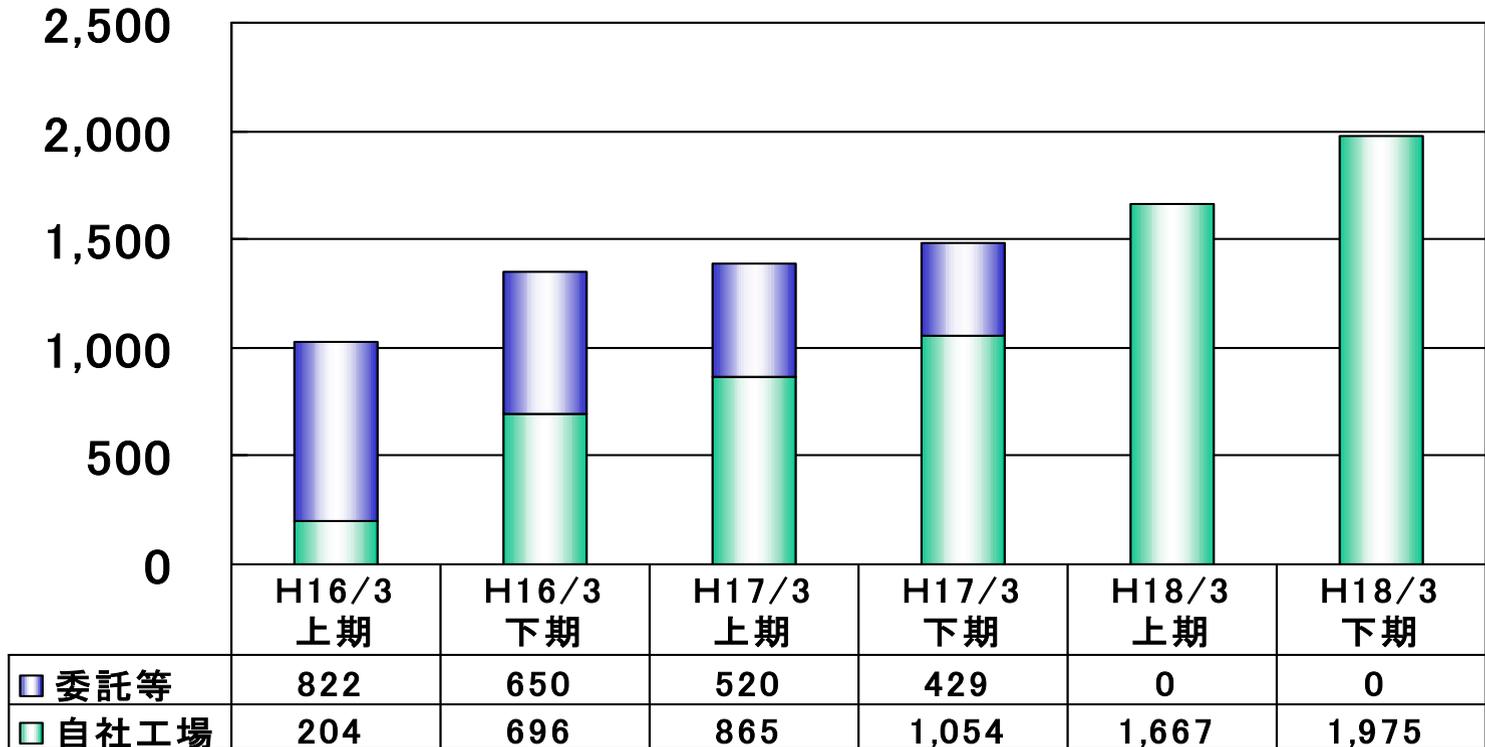
**健康機器**：家庭用血圧計がロシア市場を中心に好調

# 家庭用血圧計の生産状況



## 中国における家庭用血圧計の生産状況

単位：千台



## 財務分析（貸借対照表）

### ■ 貸借対照表分析

（単位：百万円）

連結貸借対照表	17/9期 (実績)	18/3期 (実績)	前期比	コメント
流動資産合計	24,045	27,833	15.8%	現・預金+2,063、受取手形及び売掛金+1,857、棚卸資産+158
固定資産合計	10,312	10,955	6.2%	有形固定資産+629、無形固定資産△68、投資その他+81
資産合計	34,357	38,787	12.9%	
負債合計	21,847	21,332	-2.4%	長・短借入金△1,510、未払法人税等+371、その他+607
少数株主持分	53	56	5.7%	
資本合計	12,457	17,399	39.7%	
負債及び資本合計	34,357	38,787	12.9%	

# 財務分析（キャッシュフロー）



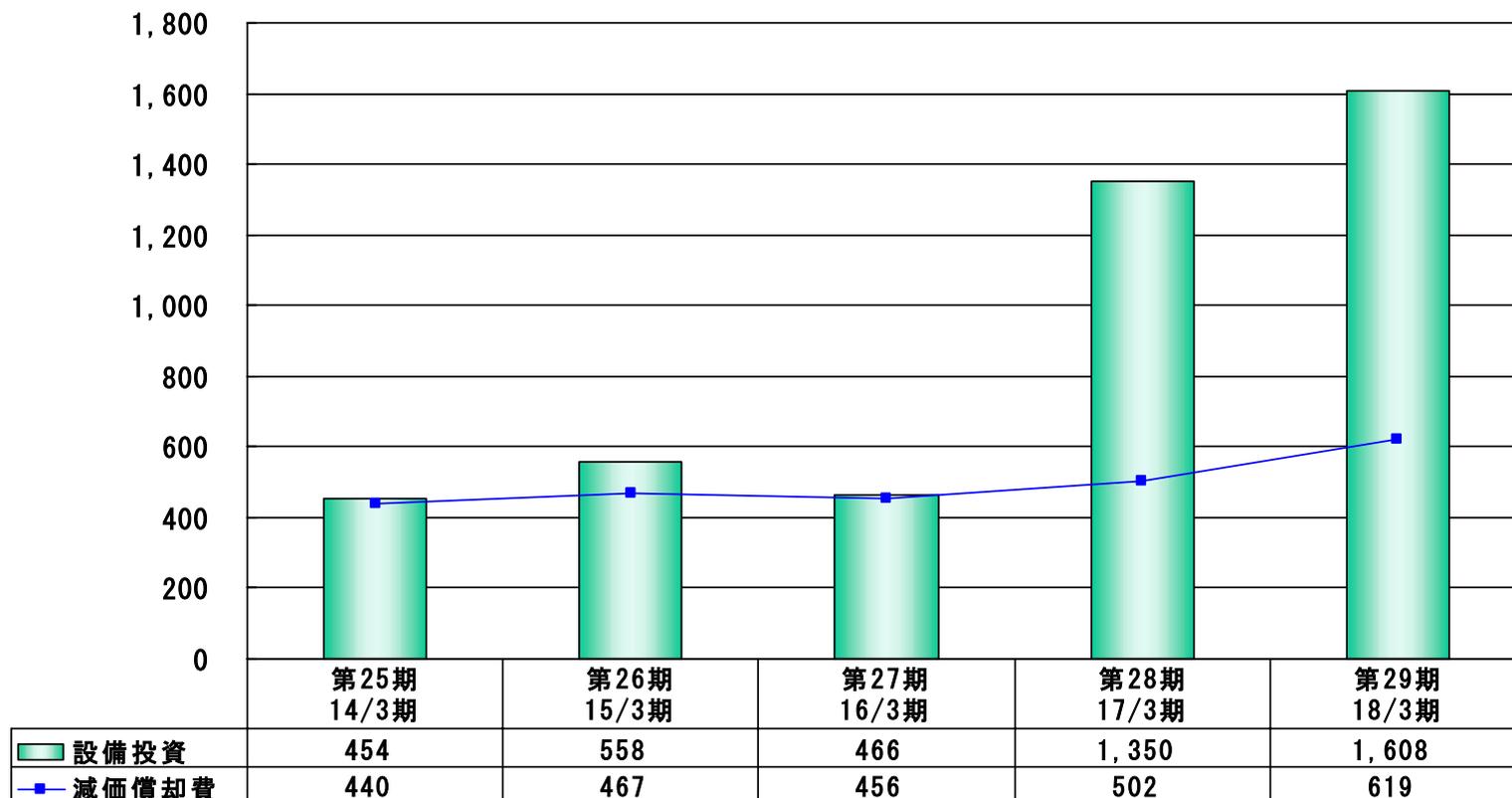
## ■ キャッシュフロー分析

（単位：百万円）

連結キャッシュフロー	17/3期 (実績)	18/3期 (実績)	コ メ ン ト
営業活動によるCF	2,552	2,058	税前当期純利益+3,156、減価償却費+1,069、売上債権増△1,560、法人税等支払△1,216
投資活動によるCF	△2,295	△3,936	営業譲受に伴う支出△1,897、有形固定資産の取得△1,575
財務活動によるCF	1,209	3,212	株式の発行+3,733、長・短借入金の減少△378
現金及び現金同等物の増加額	1,543	1,336	
現金及び現金同等物の期末高	3,639	4,975	

## 設備投資・減価償却費の推移

(単位：百万円)

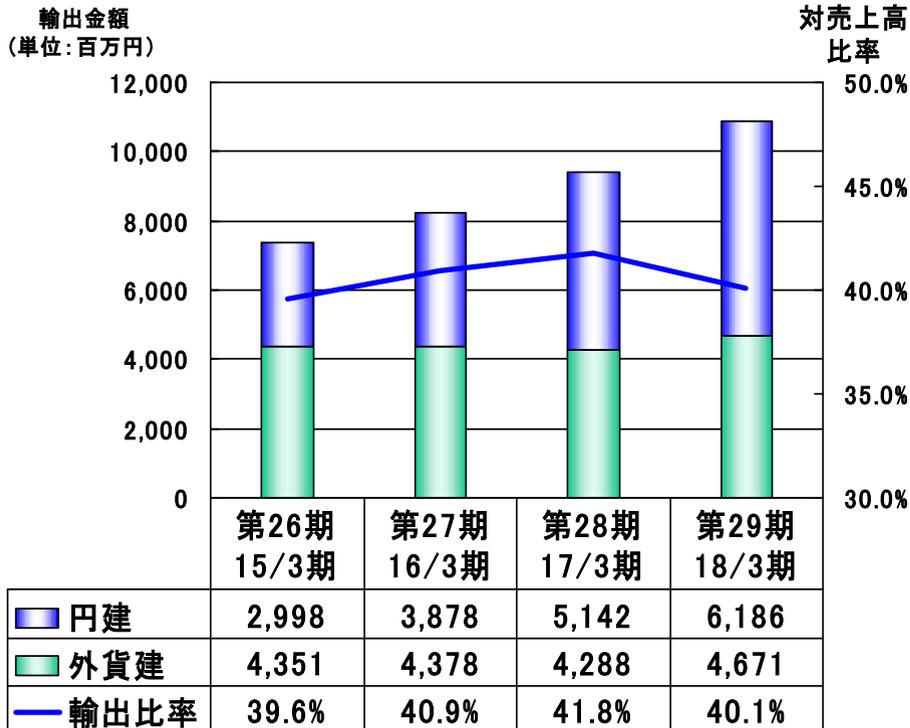


今期の設備投資は、開発・技術センターにおける社屋等の建設632百万円を主因に増加

# 為替の影響について



## 輸出の状況



## 18年3月期の外貨建て取引の状況

通貨 (千単位)

区分		通貨		
		ドル	ユーロ	オーストラリア ドル
フロー	販売	38,566	6,871	2,343
	仕入	57,977	62	2,456
	差額	-19,411	6,809	-113
ストック	債権	20,764	1,411	500
	債務	20,342	0	157
	差額	422	1,411	343

※A & D 単体での状況です

# 平成19年3月期の見通し



(単位：百万円)

連結損益	18/3期 (実績)	19/3期 (予想)		前期比	コメント	
		上期	下期			
売上高	31,226	16,195	18,084	34,279	9.8%	DSP事業を中心に売上増加
売上原価	18,039	9,151	10,179	19,331	7.2%	DSP事業の伸長と利益率の向上を見込む
販売費及び一般管理費	9,839	5,380	5,541	10,921	11.0%	開発費の増加を見込む
営業利益	3,348	1,664	2,364	4,027	20.3%	
経常利益	3,192	1,492	2,150	3,642	14.1%	
当期純利益	1,936	919	1,391	2,310	19.3%	
1株当たり利益 (円)	89.73			104.50	16.5%	

# 計測・計量機器事業 見通しー1



(単位：百万円)

セグメント	18/3期 (実績)	19/3期 (予想)		前期比		
		上期	下期			
計測・計量機器事業	売上高	19,776	10,321	11,428	21,748	10.0%
	売上原価	11,660	6,002	6,484	12,487	7.1%
	販管費	5,786	3,332	3,328	6,661	15.1%
	営業利益	2,330	986	1,615	2,601	11.6%

## 1. 売上

- ・ DSP事業において、新規・応用ともに更なる売上増加を目指す

## 2. 売上原価

- ・ DSP事業の伸長と利益率の向上を見込む

## 3. 販管費

- ・ ADTを含めたDSP事業における開発費の増加を見込む

⇒前期比15.1%の増加を見込む

# 計測・計量機器事業 見通し-2



(単位：百万円)

製 品 種 別	18/3期 (実績)	19/3期		前 期 比	
		上期予想	下期予想		
計 測 機 器	1,842	796	908	1,704	-7.5%
計 量 機 器	10,648	5,483	5,981	11,464	7.7%
計測・制御・シミュレーションシステム(DSP)	4,583	2,652	3,268	5,920	29.2%
電子ビーム関連ユニット	2,703	1,390	1,270	2,660	-1.6%
売 上 合 計	19,776	10,321	11,428	21,748	10.0%

## 計測機器

: 自動車関連を中心にDSP応用試験機の市場開拓を推進

## 計量機器

: 既存製品は更なるコストダウンで競争力強化

DSP技術応用で新市場開拓

## DSP

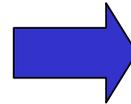
: 国内は、自動車メーカーのニーズに応じてアプリケーションを強化  
海外では、アメリカを始めアジア・ヨーロッパでの市場拡大に注力

電子ビーム関連ユニット: 更なる高性能化、ローコスト化の追求

# DSP事業における今期の取組み

## 取組み その1

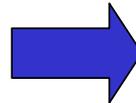
自動車メーカー、コンサルタント会社と組んで、新しい自動適合システムの開発



世界で戦えるエンジンベンチを実現して、どの会社の仕様にもマッチングするオープンなシステムを目指す

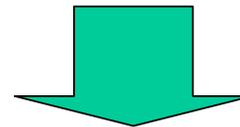
## 取組み その2

ATLASのオブジェクトモデル化



従来のスクリプト言語からオブジェクトコード化を実現し、顧客によるカスタマイズを容易に

CASのリニューアルで高速化図る

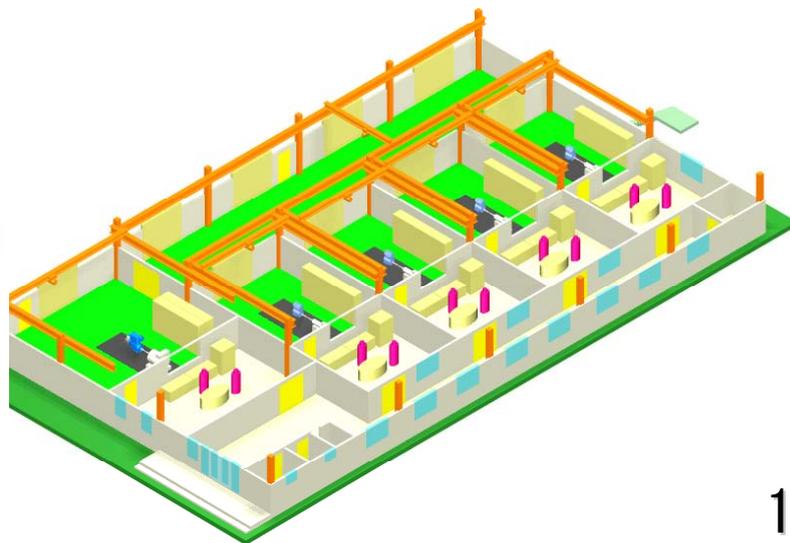
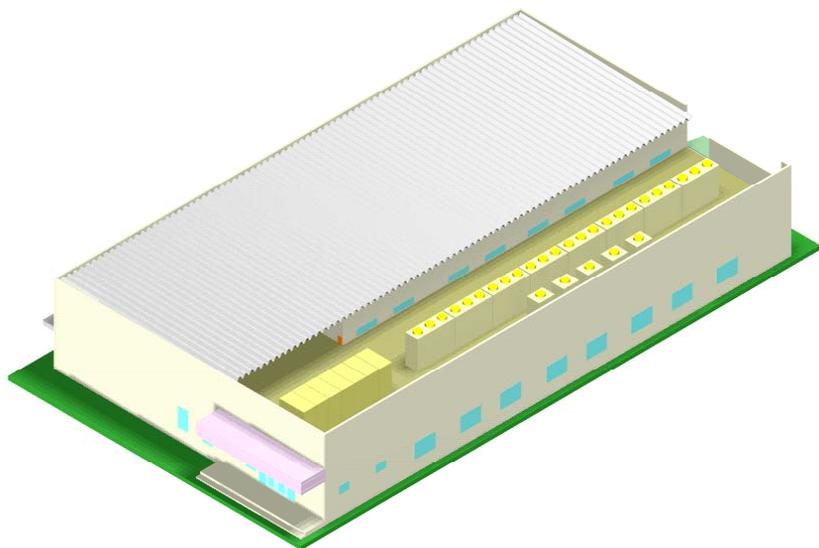


競合企業には無い発想で大きな差別化要素

# エンジン実験棟の増設について

自動車会社向け開発支援ツールの開発のために建設した第2実験棟が好評のため、  
更なる要望に答えるために実験設備を増設

- 導入の目的：
  - 自動車エンジンMBEシステムの開発及び検証
  - 定常・過渡適合システムの開発及び検証
  - エンジン計測制御技術の開発と検証
  - 顧客との共同開発の場をつくる
- 試験室の数：
  - ガソリンエンジン用 4ベンチ
  - ディーゼルエンジン用 1ベンチ



# 医療・健康機器事業 見通しー1



(単位：百万円)

セグメント		18/3期 (実績)	19/3期		前期比	
			上期	下期		
医療・健康機器事業	売上高	11,450	5,874	6,656	12,531	9.4%
	売上原価	6,379	3,149	3,695	6,844	7.3%
	販管費	3,002	1,578	1,611	3,189	6.2%
	営業利益	2,069	1,147	1,350	2,498	20.7%

## 1. 売上

- ・新製品の投入や新たなマーケットへの進出を図る

## 2. 営業利益

- ・生産増加に伴う原価低減効果、及び販管費の抑制による利益率の向上を見込む

## 医療・健康機器事業 見通し－2



(単位：百万円)

製品種別	18/3期 (実績)	19/3期		前期比	
		上期予想	下期予想		
医療機器	2,696	1,201	1,575	2,776	3.0%
健康機器	8,754	4,673	5,081	9,755	11.4%
売上合計	11,450	5,874	6,656	12,531	9.4%

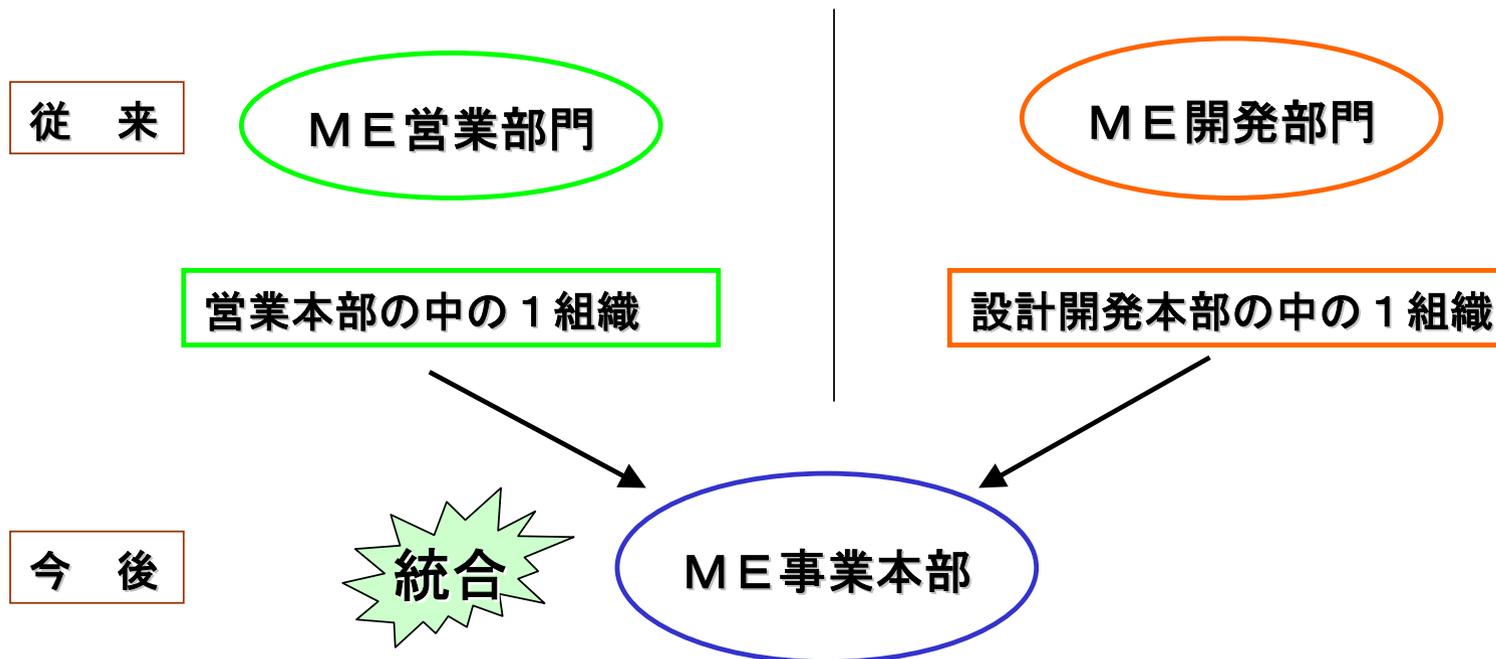
**医療機器**：国内ではME事業本部を新設、営業・開発一体で市場を開拓

**健康機器**：販売増加に対応するための生産体制を增強（工場移転）

中国市場等の市場開拓を推進

# ME事業本部の立ち上げについて

医療機器（ME）分野の事業強化を目的として、新たにME事業本部を新設しました



- ・顧客の視点に立ち、市場ニーズに合った製品を早期投入
- ・営業体制を強化して、全国的な流通チャネルを構築
- ・アフターサービス体制の強化を目指す

# 中期経営計画



- 1 中期経営計画の基本方針
- 2 DSP事業のビジネスモデルについて
- 3 DSP事業について
- 4 自動車開発のビジネスモデルについて
- 5 電子ビーム関連ユニットについて
- 6 計測機器・計量機器について
- 7 中期経営計画（計測・計量機器事業売上高）
- 8 医療機器・健康機器について
- 9 中期経営計画（医療・健康機器事業売上高）
- 10 中期経営計画（セグメント別収益）
- 11 中期経営計画（損益の概況）－1
- 12 中期経営計画（損益の概況）－2

## ①急速に進展する技術革新に対応して、売上増加と収益性を向上

DSPシステムはあらゆる産業における計測・制御・解析・シミュレーションのプラットフォーム

様々な分野への積極的な応用展開を図る

## ② グローバリゼーションへの対応を図り競争力を強化

### ○ 海外生産

最適生産体制構築による価格競争力強化

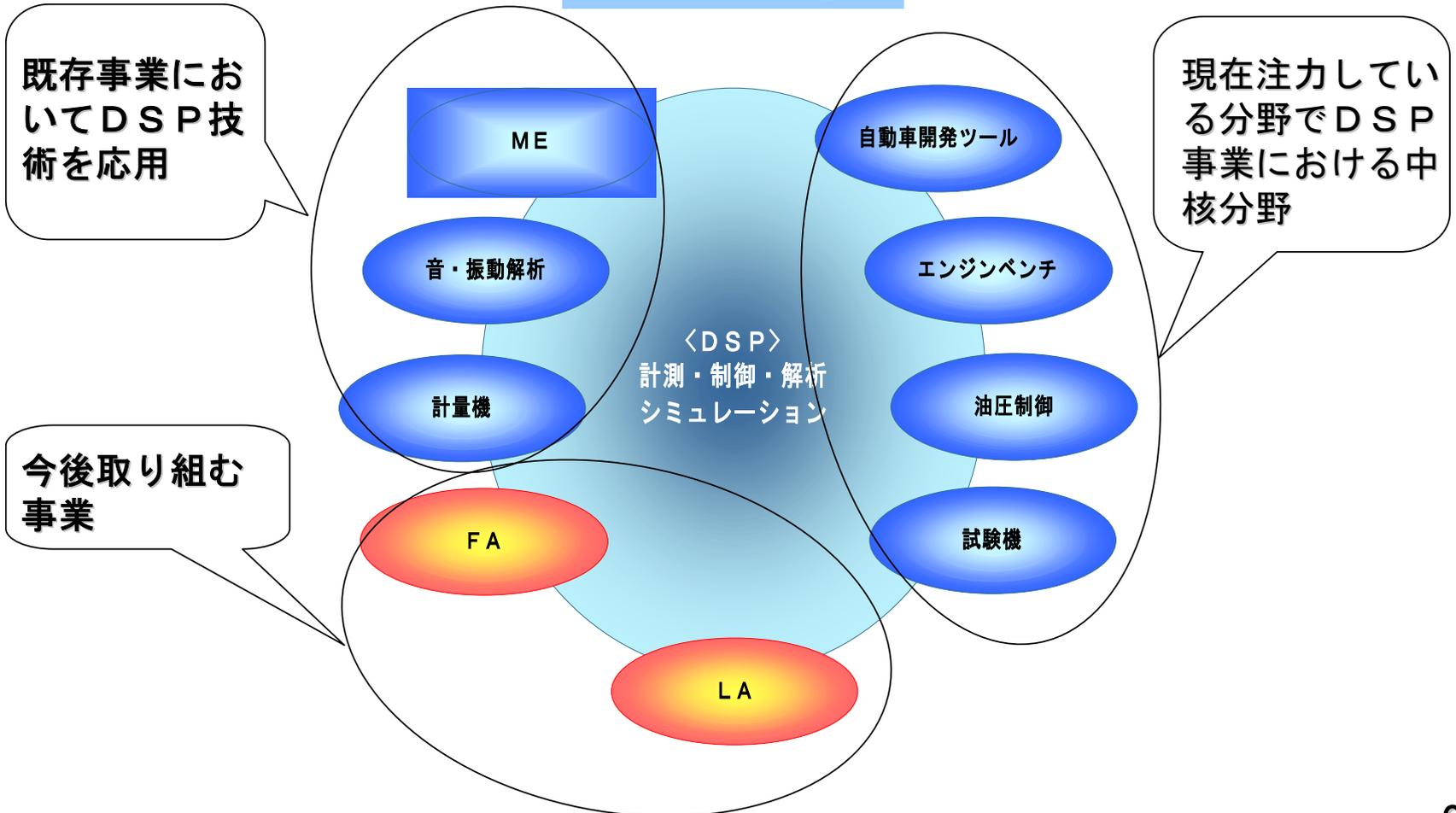
### ○ 海外販売

DSP製品の海外販売体制の構築

DSP製品の海外市場認知度の向上及び販売促進

# DSP事業のビジネスモデルについて

ビジネスモデルの概念図



## 1. 開発戦略

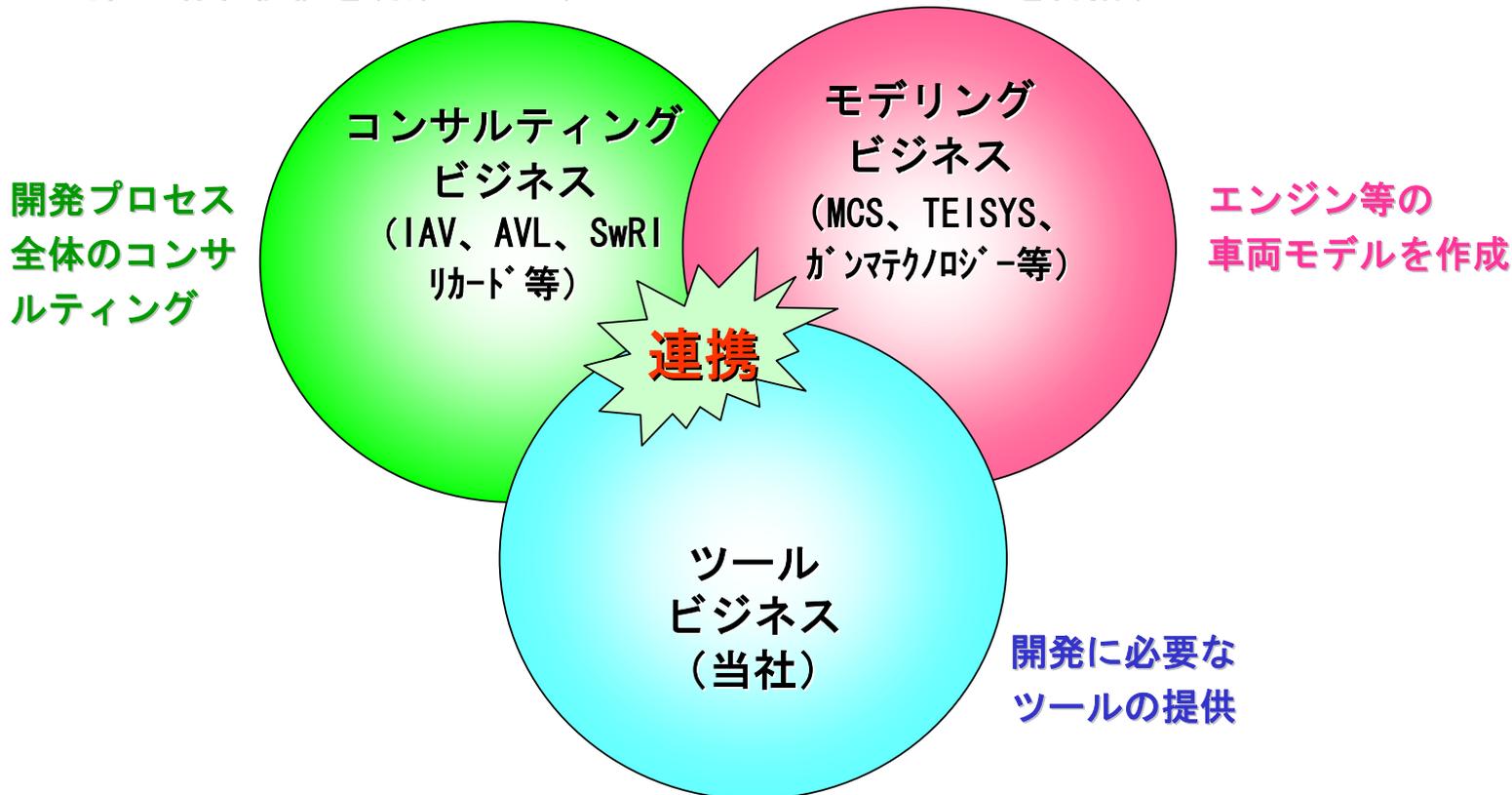
- ①コンサルタント会社及びモデリング会社とのアライアンスを強め、世界市場で勝てる開発ツールの開発を進める
- ②OPALと共同でモーターH I L Sの開発を推進

## 2. 営業戦略

- ①国内マーケット
  - ・自動車市場の更なる開拓
  - ・航空、油圧制御関連等の市場開拓
- ②海外マーケット
  - ・北米展開を軌道に乗せて、売上増加を目指す
  - ・欧州展開のインフラを整える

# 自動車開発のビジネスモデルについて

当社はツールメーカーとして、コンサルタント会社、モデリング会社と連携する  
→当社の存在価値を明確にして、ツールメーカーのトップを目指す



・どの会社の仕様にもマッチングするオープンなシステムを目指す

## 1. 電子銃

- ・高電圧化を進めて、安定性向上に注力
- ・イオン銃は、汎用ユニット（30 kV）の性能向上と市販へ

## 2. 偏向回路

- ・更なる高速／高精度化のため、デバイス開発と回路開発を推進
- ・新たな顧客の開拓に取り組む



半導体装置メーカーの動向を注視し、長期的なキーコンポーネント事業の確立を目指す

## 1. 計測機器

- ①新製品投入による市場掘り起こし
- ②新規市場向けDSP応用製品の開発、および製品の規格化
- ③海外調達の推進等によるコストダウンの推進

## 2. 計量機器

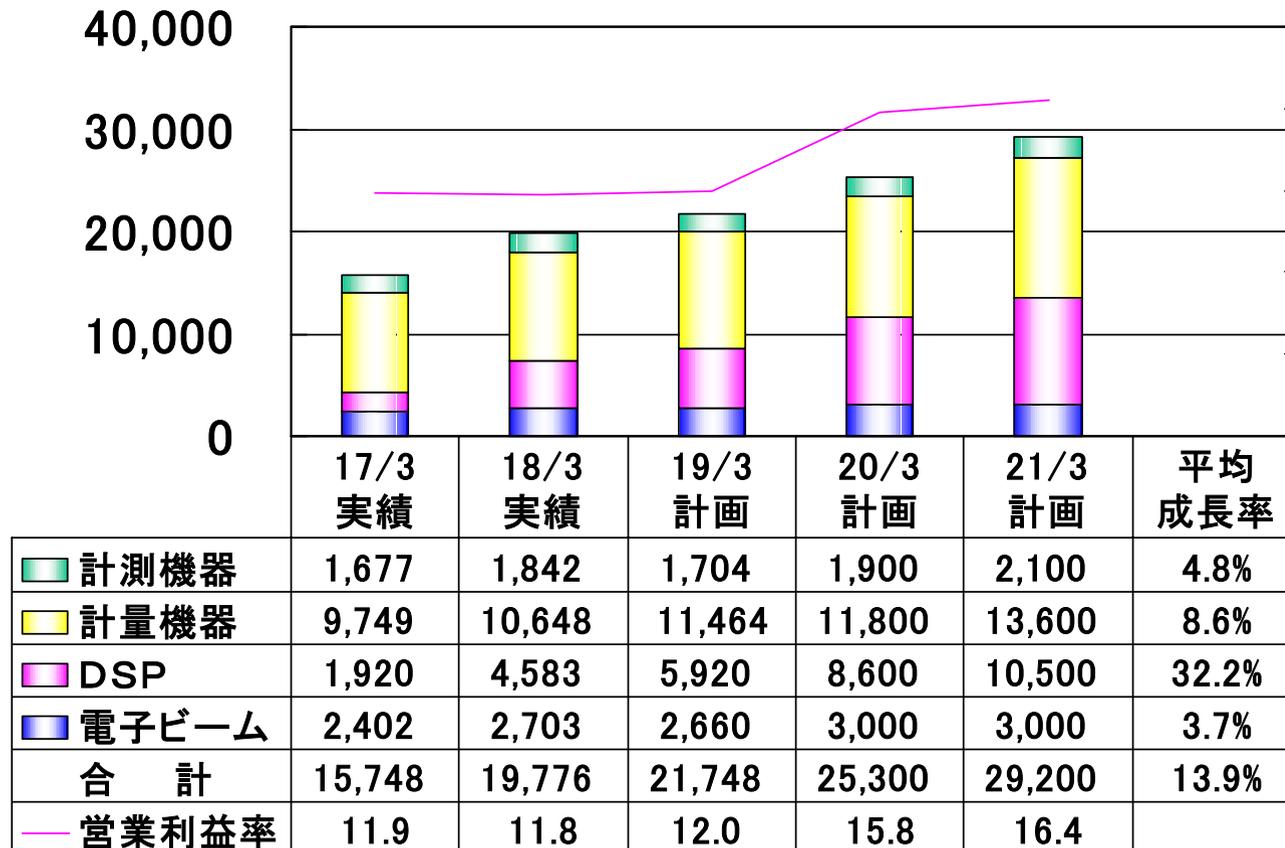
- ①DSP技術を応用して、計量分野からサーボ市場、FA市場等の新しいマーケットを開拓（モデル予測制御、パネルコンピュータ）
- ②ローコスト製品の開発と市場への投入で競争力アップ
- ③中国でのロードセルの生産体制の確立（価格競争力を強化）

# 中期経営計画（計測・計量機器事業売上高）



単位：百万円

単位：%



## 1. 医療機器

- ・ 事業本部体制の推進により、顧客ニーズに合った製品開発と全国販売網の確立を推進
- ・ DSP技術の応用を推進（動脈硬化測定器）

## 2. 健康機器

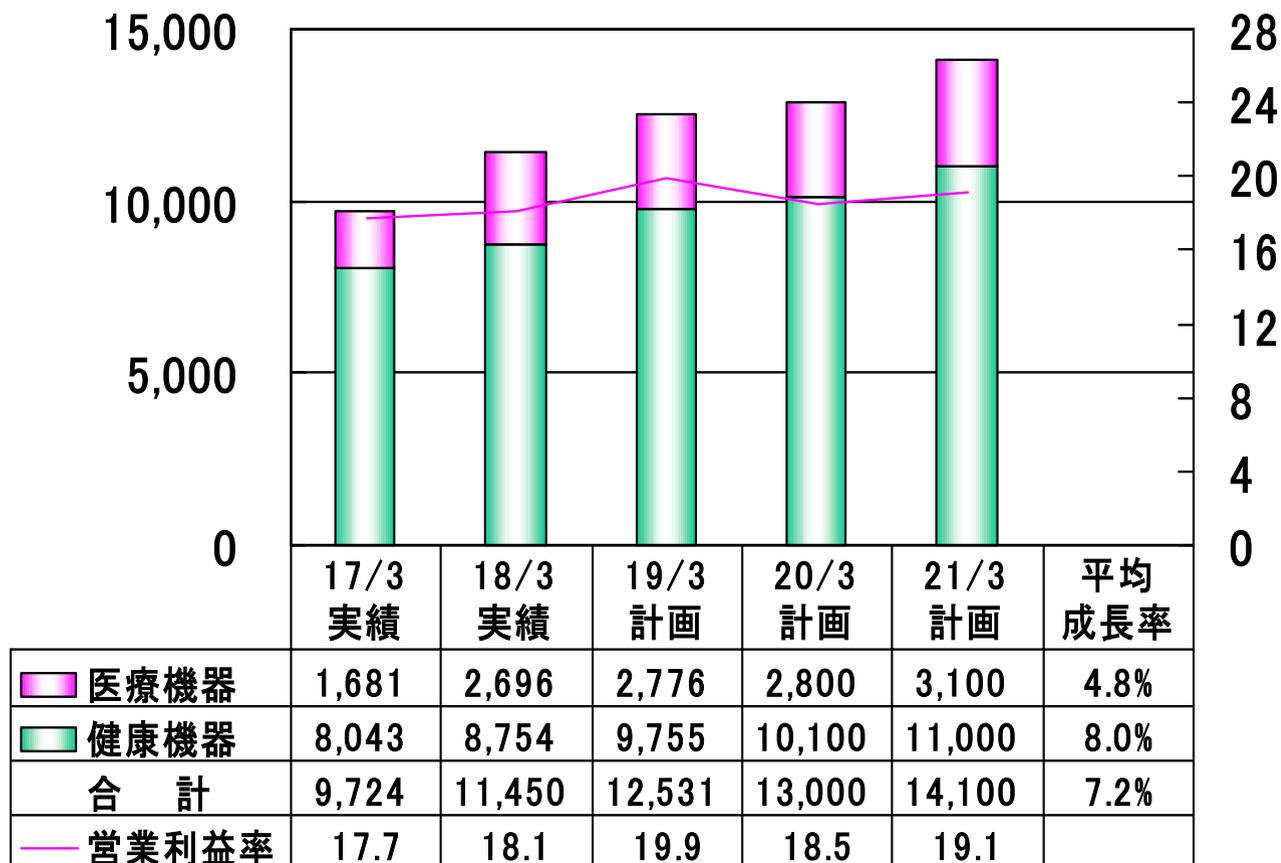
- ・ 家庭用血圧計400万台体制を目指し、生産体制の構築と販売体制の強化
- ・ 製品内製化率を高め、コスト削減、在庫圧縮、リードタイム短縮

# 中期経営計画（医療・健康機器事業売上高）



単位：百万円

単位：%



# 中期経営計画（セグメント別収益）



（単位：百万円）

セグメント		18/3期 (実績)	19/3期 (計画)	20/3期 (計画)	21/3期 (計画)	平均 成長率
計測・計量機器 事業	売上高	19,776	21,748	25,300	29,200	13.9%
	売上原価	11,660	12,487	14,100	16,700	12.8%
	販管費	5,786	6,661	7,200	7,700	10.1%
	営業利益	2,330	2,601	4,000	4,800	28.5%
医療・健康機器 事業	売上高	11,450	12,531	13,000	14,100	7.2%
	売上原価	6,379	6,844	7,200	7,700	6.5%
	販管費	3,002	3,189	3,400	3,700	7.2%
	営業利益	2,069	2,498	2,400	2,700	9.8%
配賦不能費用		1,051	1,071	1,100	1,200	4.6%
営業利益計		3,348	4,027	5,300	6,300	23.6%

## 中期経営計画（損益の概況）－ 1



(単位：百万円)

連結損益	17/3期 (実績)	18/3期 (実績)	19/3期 (計画)	20/3期 (計画)	21/3期 (計画)	平均 成長率
売上高	25,472	31,226	34,279	38,300	43,300	11.5%
営業利益	2,678	3,348	4,027	5,300	6,300	23.6%
経常利益	2,415	3,192	3,642	4,900	6,000	23.7%
当期純利益	1,440	1,936	2,310	3,100	3,700	24.3%

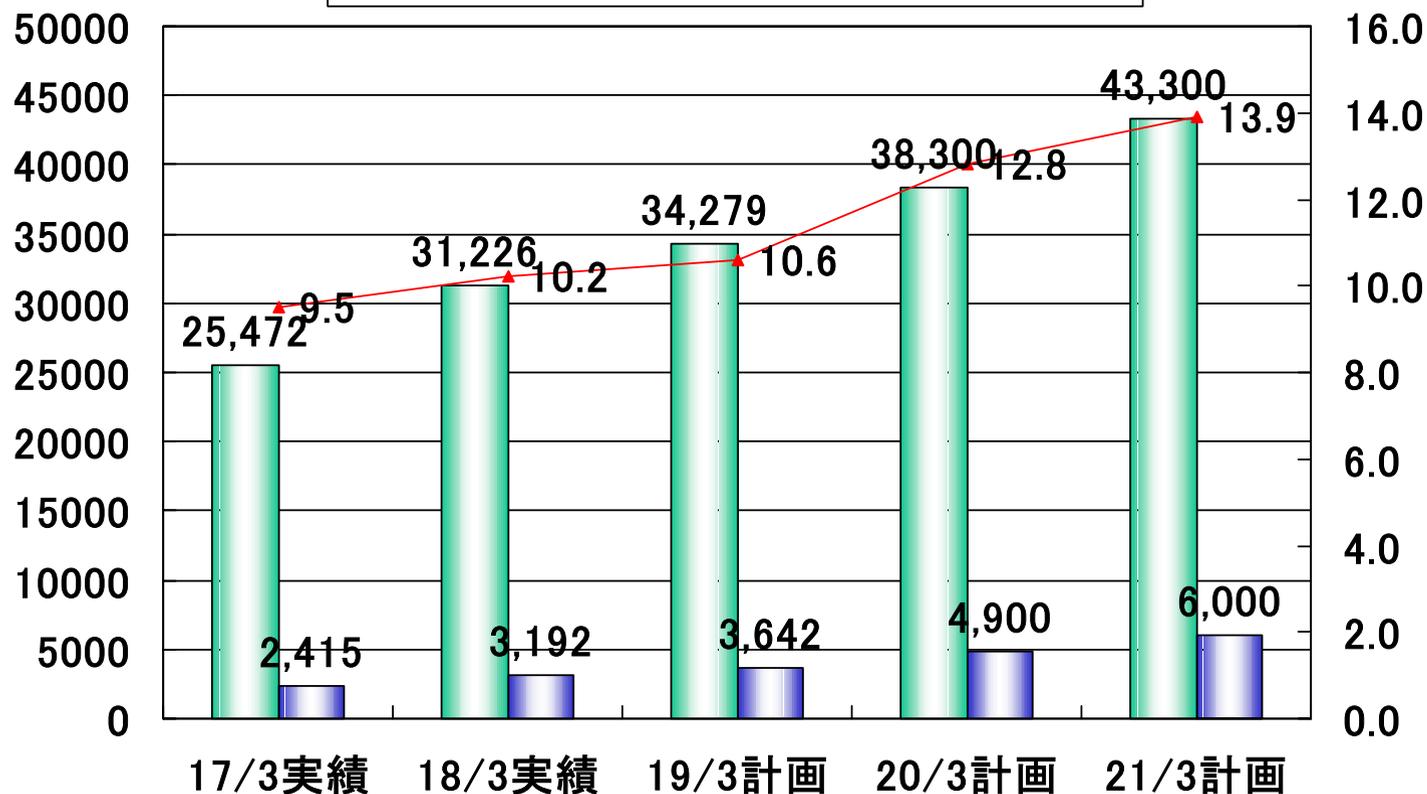
## 中期経営計画（損益の概況）－ 2



（単位：百万円）

■ 売上高 ■ 経常利益 ▲ 経常利益率

（単位：％）



**AND**

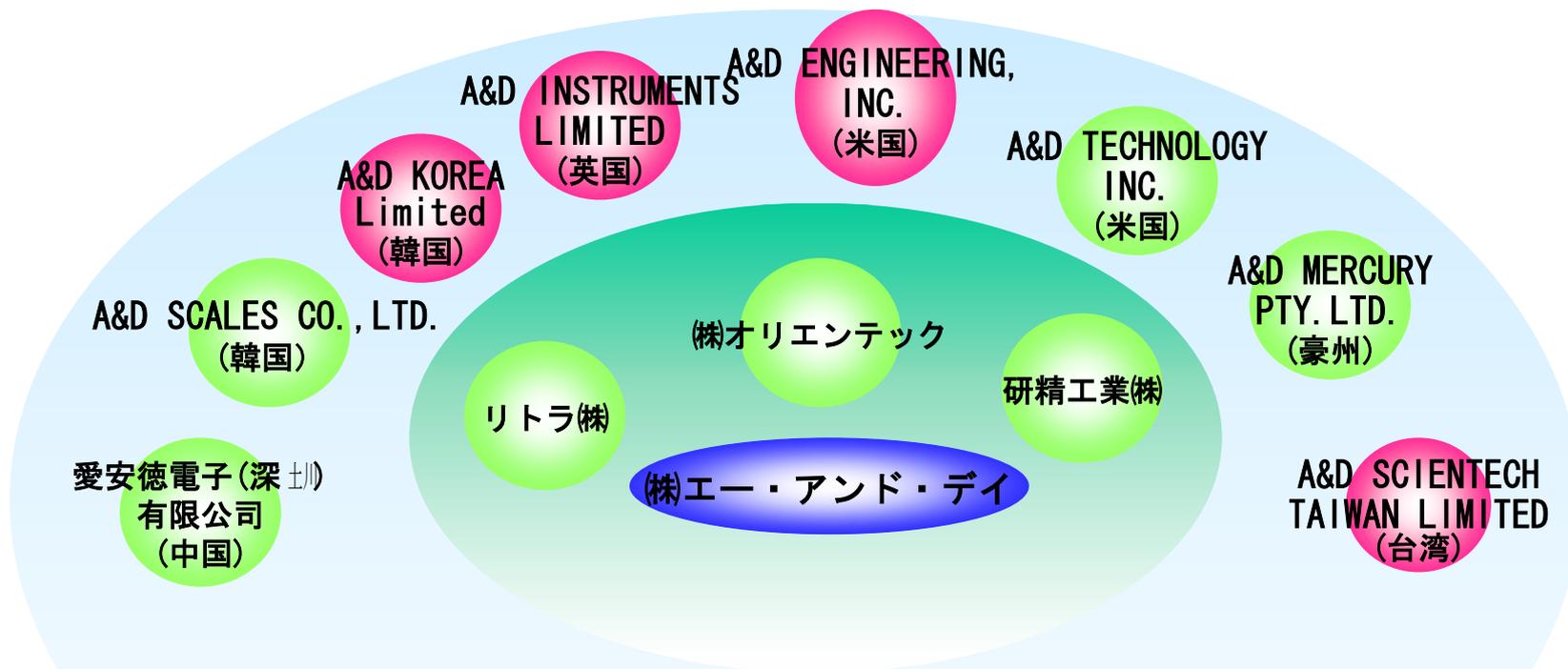
株式  
会社 **エー・アンド・ティ**

# 補 足 資 料



- 1 グループの概況
- 2 平成18年3月期ADT単独の決算状況
- 3 CASについて
- 4 ATLASについて
- 5 定常適合評価試験システムについて
- 6 開発の状況

# グループの概要



A & Dは開発および販売を中心に活動  
生産主体は国内外関係会社  
海外販売は関係会社経由と直販を併用

-  生産・開発関係会社
-  販売関係会社
-  その他関係会社

# 平成18年3月期ADT単独の決算状況



(単位：百万円)

連 結 損 益	1 8 年 3 月 期 通 期 実 績
売 上 高	782
売 上 原 価	666
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	520
営 業 利 益	△404
経 常 利 益	△400
税 引 き 前 利 益	△400
当 期 純 利 益	△400

(注) MTS社のPTT部門の買収に伴うコンサルティング費用等の発生(136百万円)の費用が発生しております。

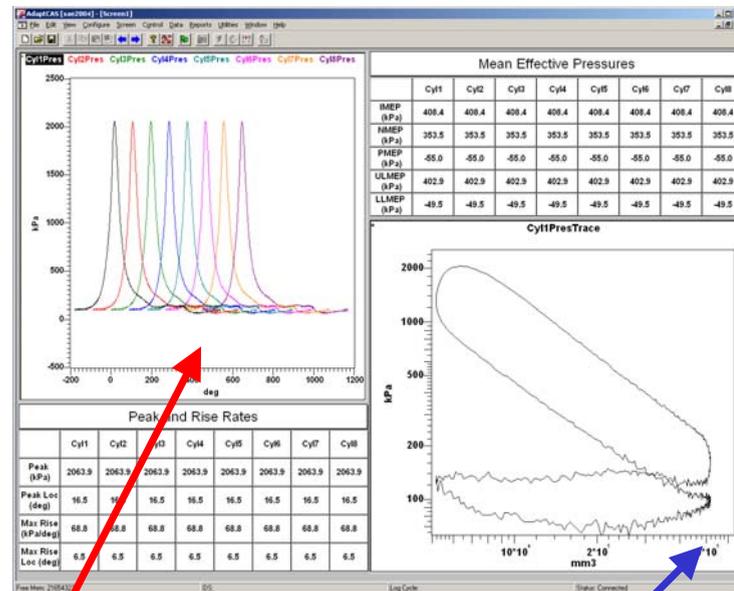
# リアルタイム燃焼解析システム (CAS)

## ■ システム内容

エンジンのシリンダー内での圧力変化等から燃焼解析を行うシステム。

## ■ システムの特徴

- ・リアルタイムで燃焼領域探査を行う事が可能
  - ・ATLASと組み合わせる事で、自動定常適合が可能
- 従来の適合試験では数日かかっていた試験が数時間で可能 (実現しているのは世界で2社のみ)



クランク角度ごとのシリンダー内圧力をリアルタイムで監視

シリンダー容積と圧力の変化からエンジン出力を算出

クランク角度に対する点火タイミングの限界点を探査して、安定領域を探し出しテスト時のノッキング等を防ぐ

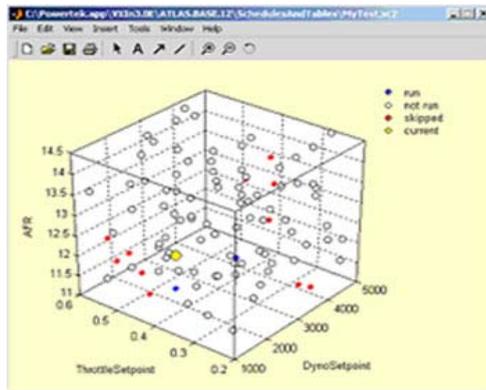
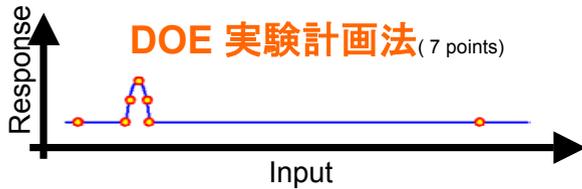
# 適合評価試験システム(ATLAS)

## ■ A & Dの適合評価試験システム概念（自動化と時間短縮を実現）

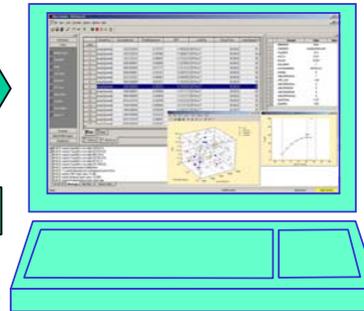


### ■ MBC Toolbox

#### DOE 実験計画法 (7 points)



### ATLAS Test Manager 試験管理システム

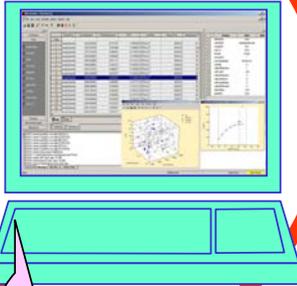


### ANDROMEDA 3000 Virtual & Real Simulator 評価試験シミュレータ



# 適合評価試験システム

**ATLAS**  
Test Manager

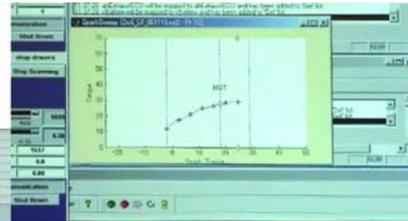


DoEの実験計画に基づく、領域探索とデータ収集ポイントを指令する。

**ANDROMEDA 3000**  
Virtual & Real Simulator

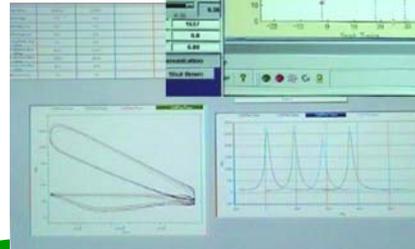


ATLAS画面



ATLASからの実験スケジュールに従って、自動運転を行う。

燃焼の安定状態をATLASで判定監視する。

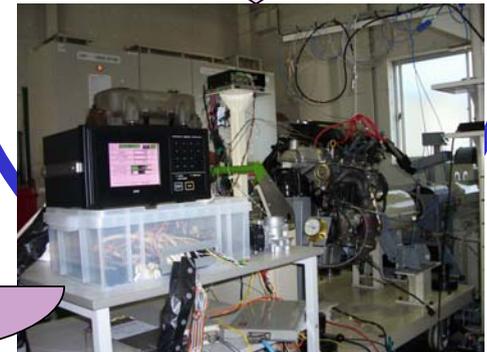


CAS画面

**CAS**



燃焼のリアルタイム解析



RPT によるエンジン制御

# 開発の状況



社内資源の多くを開発に投入し、  
各事業分野で継続して開発を実施。

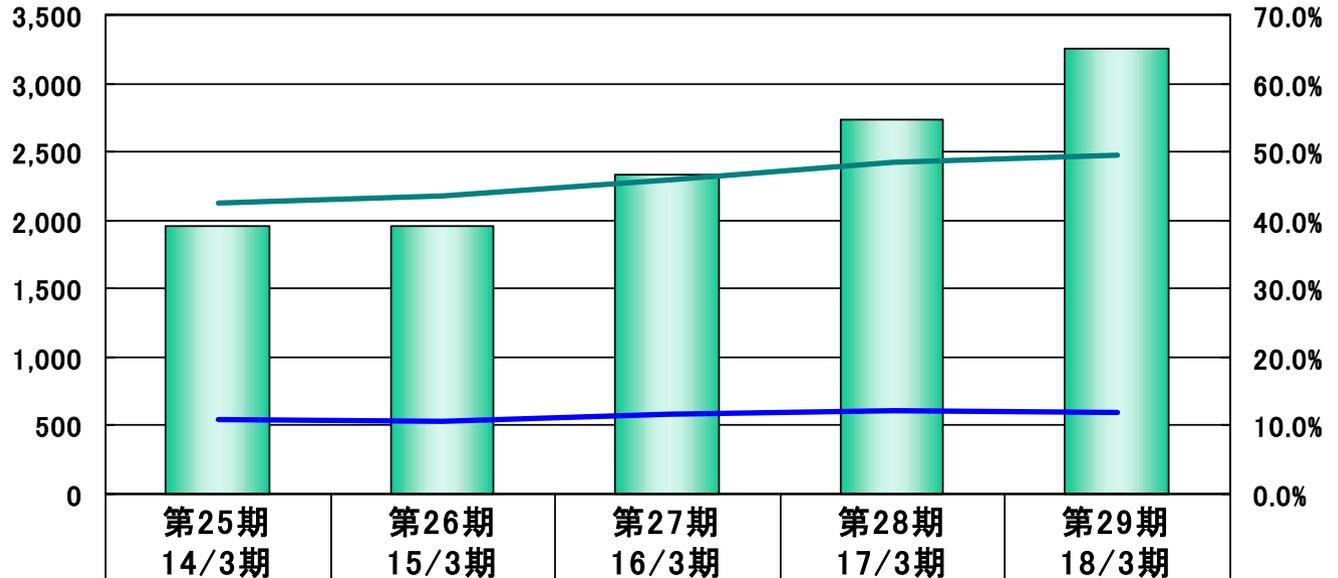
(平成18年3月末/A & D単体)

在来事業 160名 ( 57.1%)

新規事業 120名 ( 42.9%)

合 計 280名 比率

研究開発費  
(単位:百万円)



※A & D単  
体での状況

■ 研究開発費	1,951	1,963	2,337	2,741	3,254
— 売上高比率	11.0%	10.6%	11.6%	12.2%	12.0%
— 開発人員比率	42.5%	43.6%	45.8%	48.6%	49.4%